

第92回 みんなで作る音楽会 報告

日時：10月8日 水曜日 13:15 から 16:20

場所：公民館 114 室

参加者：久我、小林、山川夫妻、岡田、榎本、高塚、伊藤、下中、庄司、高木、徳島、光長、松山、安居院（記）計15名

ウィーンフィル・サマーコンサート 夏、長崎から

今回は、夏の野外コンサート 2 本立て。恒例のシェーンブルン宮殿でのウィーンフィル・サマーコンサートと 19 年ぶりの稲佐山でのさだまさしのコンサートを聞きました。

1. ウィーンフィルシェーンブルン夏の夜のコンサート 2025

13:15-14:50

今年は、2023 年のウィーン・フィルの日本ツアーを担うなど、ウィーン・フィルとも関係を深めているトゥガン・ソヒエフが初登場。

ビゼー没後 150 年にあたり代表作『カルメン』と『アルルの女』から 3 曲が演奏されているほか、ウィーン・フィルの初代指揮者オットー・ニコライの邸宅を模様替えして設立された博物館『音楽の家』創設 25 年を記念して『ウィンザーの陽気な女房たち』序曲が取り上げられています。

世界的なテノール、ピョートル・ベチャワとウィーン少年合唱団が初参加しています。野外コンサートながら全力投球のウィーン・フィルの熱演が初夏の夜を華やかに彩ります。

楽曲；

01. J.S.バッハ：管弦楽組曲 第 3 番ニ長調 BWV.1068～アリア

02. オッフエンバック：歌劇『ラインの妖精』～

『一緒においで、歌って踊ろう』

03. ビゼー：『アルルの女』第 2 組曲～ファランドール

04. ビゼー：歌劇『カルメン』～第 3 幕への前奏曲

05. ビゼー：歌劇『カルメン』～ドン・ホセのアリア

『お前が投げたこの花は』（花の歌、第 2 幕）

06. チャイコフスキー：バレエ音楽『くるみ割り人形』
Op.71～花のワルツ

07. グリーグ：『ペール・ギュント』第 1 組曲 Op.46～朝

08. ドヴォルザーク：スラヴ舞曲 第 1 番ハ長調 Op.46-1

09. マスカーニ：歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』～間奏曲

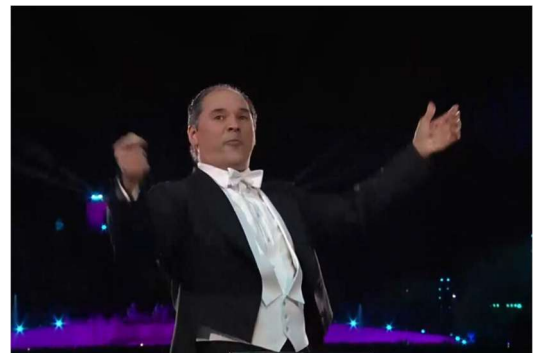
10. プッチーニ：歌劇『トゥーランドット』～カラフのアリア『誰も寝てはならぬ』（第 3 幕）

11. サン＝サーンス：歌劇『サムソンとデリラ』Op.47～バックナール（第 2 幕）

12. ベルリオーズ：劇物語『ファウストの劫罰』Op.24～ラコッツィ行進曲

13. ニコライ：歌劇『ウィンザーの陽気な女房たち』序曲

14. カールマン：オペレッタ『伯爵家令嬢マリツァ』～タシロ伯爵のアリア『ウィーンによろしく』



(アンコール)

15. レハール：オペレッタ『ジュディッタ』～オクタヴィオのアリア『友よ、人生は生きる価値がある』

感想；

凄いの一言。

まず、照明の演出が凄い。あんなに広い空間をいろんな色に染め分ける色彩感覚に脱帽。そして、ウィーン・フィルの華麗な演奏。特に今回の演目では、ハープが素晴らしかった。何より凄かったのは、世界的なテノール、ピョートル・ベチャワの歌唱力である。

聞き惚れた！

得意のドン・ホセの唄を言うに及ばず、「誰も寝てはならぬ」の迫力は素晴らしかった。それに、「ウィーンによろしく」は歌詞を見ながら聞いていたが、ウィーンの街に対する愛情が感じられて、心に沁みた。さらに、アンコールの「友よ、人生は生きる価値がある」も、説得力があった。オーケストラに負けない声量に驚いた。歌詞に込められた思いが伝わってくるのだ。

そして、清涼材のようなウィーン少年合唱団の合唱もよかった。

バランスのとれた選曲に、感謝したい。

ノーカットでみたので、我々もまるでシェーンブルン宮殿に招かれたような気分だった。

いや、それよりも映像分だけ現場の観客よりも素晴らしいものを見たことになる。

まさに、至福のひと時であった。

2. 休憩

14:50-15:00

次回は、11月12日水曜日 13:15-16:00 @114室 4655

3. 夏、長崎から

15:00-16:00

今回で通算21回目となった〈夏 長崎から〉は、さだまさしが「音楽は平和の象徴だから」と日本、世界へ平和の思いを発信しようと1987～2006年に地元長崎で開催。「家族連れで楽しんでほしい」との思いから、無料で実施され、毎回1万5千人を超える観客を集め、長崎の夏の風物詩として親しまれてきたコンサート。



今回の開催に向けて「今年で戦後80年、被爆80年という大きな節目ということに背中を押されて、あとで後悔してもいけないと思って、今年は強引にやる決意をしました」と言うさだまさしは、今年73歳を迎え最後のつもりで、8月6日に長崎で歌おうという決意で19年ぶりに開催を果たしました。



楽曲；

さだまさし 長崎小夜曲

河井勇人 エルンスト「夏の名残のバラ」変奏曲

今井美樹 PIECE OF MY WISH

南こうせつ うちのお父さん 神田川

さだまさし 「墓標」、「はなむけの詩」

アンコール さだまさし「風に立つライオン」

大トリとして再登場したホストのさだまさしは、「このコンサートの間にほんの一瞬でもいいから大切な人の笑顔を思い浮かべて下さい。

そして、その笑顔を守るために自分に何ができるのか、これを考えましょう。

そして、自分が何を成すべきかが分かったら、そこへ向かって歩きだそうじゃないですか」と、会場に集まった 13,000 人を超える観客に向けてコンサート開催の想いを語りかけました。客席からの期待に応じてアンコールも行われ、「風に立つライオン」を歌唱。その後の MC では「またいつ会えるか分からないけど、最後というのが嫌なので約束をします。被曝 90 年の年にお互い元気で会いましょう！」と、再び〈夏 長崎から〉のステージに立つことを約束。

感想；

さだまさしの熱意によって開催された。この趣旨に賛同した人たちが集まって開催された。稲佐山という長崎湾を見下ろせる山の上でのコンサート。

シェーンブルン宮殿とちがって、ペンライトを持った人たちが立ち上がって声援するという形式。こっちは観客との一体感が勝負である。

オープニングの「長崎小夜曲」からすでに盛り上がっていた。みんなで歌唱するという行為が、その一体感を強める。

そしてゲストとして、プロの技を見せてくれたヴィオリンの今井勇人。応援したくなった。違う色合いの今井美樹も素敵だった。

相変わらずの南こうせつも盛り上げ方が凄かった。

そして、さだまさしがあまりなじみのない曲「墓標」、「はなむけの詩」を歌い上げた。

ダメ押しのアンコールは、やはり名曲「風に立つライオン」。圧倒的な迫力だった。

最後のアメージンググレースの旋律で歌い上げるところは、いつ聞いてもジーンとくるものがある。十分満足したという感覚になる。ありがとう！さだまさし。

10 年後にまたやるって。 本当？ その時は 83 歳だよ。 大丈夫？

でも、そういう目標ってある方がいい。

我々もそれを聞きたいと長生きして待っているし、歌わなければとさだまさしも頑張るだろうから。

河井勇人（かわい ゆうじん）

東京藝術大学 SSP（飛び入学）

3 年在籍

2020 年度 宗次徳二特待奨学生。

2002 年 東京生まれ

2017 年 若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール第 10 回記念大会ヴァイオリン部門第 1 位（カザフスタン）。同年、米国の主要クラシック音楽専門サイト The Violin Channel の Rising Star に抜擢・特集される。

2021 年 第 2 回ヴィクトル・トレチャコフ国際ヴァイオリンコンクール第 1 位（ロシア）。

現在 堀 正文・玉井葉採・V.トレチャコフ各氏に師事。

使用楽器は一般財団法人 ITOH より貸与アントニオ・ストラディヴァリウス「Lyal」(クレモナ 1702 年製)。



以上